

平成 27 年度警察庁委託調査研究報告書

平成 27 年度  
地域の犯罪実態の分析に向けた意識調査  
に関する調査研究

【 報 告 書 】

平成 28 年 3 月

住民の意識調査に関する有識者研究委員会

## 研究報告書のまとめにあたって

地域住民の安全・安心の確保には、刑法犯認知件数の減少とともに、体感治安の向上が求められる。そのためには、先ず、地域住民の治安意識を的確に把握する必要がある。

われわれ「住民の意識調査に関する有識者研究委員会」では、昨年度の中間報告（『警察が行う「治安等に関する住民意識調査」標準版』）において、各都道府県警察が主体となって独自に実施する全国共通の住民意識調査を提案した。調査の指針は、1）地域間および経年比較が可能な調査であり、2）調査票および調査方法を同一とする継続調査であることとした。

加えて、当該調査は、その手法において大きな特性を有する。運転免許更新申請者を対象とする「インターフェイス型調査」、すなわち、運転免許試験場、運転免許センターや警察署に免許更新に訪れた住民に、自記式で回答してもらう調査を意味する。

現在の社会では、政策形成において客観性の高いエビデンスが求められる。ところが、同時に、正確な社会の実態の把握が非常に困難であるという背反的状况が存在する。とりわけ、社会統計調査や意識調査に関しては、政府機関のみならず、報道機関の実施する調査においても、対象者へのリーチが困難となり、若年層をはじめとする回収率の低下傾向が顕著である。

運転免許の更新には、全国で年間 1,700 万人以上の人々が訪れる。調査受難の時代において、運転免許更新は、警察しか持ち得ない一般市民・住民との貴重なインターフェイスにほかならない。運転免許試験場等で実施する「インターフェイス型調査」は、警察オリジナルの調査であり、継続的に実施することにより、その結果の蓄積は「警察独自の資産」として大きな意義を持つであろう。

上記の提案に基づき、平成 27 年 8 月には、全国の都道府県警察すべてで、共通の調査票を使用した統一の調査である『全国統一治安意識調査（平成 27 年）』が実施された。各県警での回収数が平均 1,000 人強、全国総数にして約 50,000 人という、他にあまり例を見ない大規模な調査となった。最終報告書では、今回の調査の実施状況や回答結果のまとめを通じて得た知見をもとに、調査票や調査・集計方法など、今後の継続実施のための標準マニュアルを提案している。また、資料編として、今回の調査結果や都道府県比較データなどをできる限り掲載している。警察庁並びに各都道府県警察において、今後も継続的に調査を実施いただければ幸甚である。

最後に、有識者研究委員会のメンバー各位、事務局担当の（株）生活環境工房あくと、さらには、調査実施に尽力を頂戴した都道府県警察関係者の諸兄に謝意を申し述べたい。

平成 28 年 3 月

住民の意識調査に関する有識者研究委員会

座長 松本 正生

## 「住民の意識調査に関する有識者研究委員会」名簿

(順不同・敬称略)

### ○ 座 長

松本 正生 埼玉大学教授 (埼玉大学社会調査研究センター長)

### ○ 委 員

山本 功 淑徳大学コミュニティ政策学部教授 (コミュニティ政策学部長)

高木 大資 東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻  
保健社会行動学分野講師

齊藤 知範 科学警察研究所犯罪行動科学部 犯罪予防研究室 主任研究官

澤田 賢孝 埼玉県警察本部生活安全部生活安全企画課  
前地域安全対策推進室長

### ○ 事 務 局

警察庁 生活安全局 生活安全企画課  
株式会社 生活環境工房あくと

# 平成 27 年度 地域の犯罪実態の分析に向けた意識調査に関する調査研究 報告書

## 目 次

### ■ 本編

#### 1. はじめに

(1) 背景と目的	1
(2) 調査方法	2

#### 2. 調査票

(1) 調査票の設計方針	6
(2) 調査項目一覧	8
(3) 調査票（標準版，シニア版，オプション項目）	10

#### 3. 調査実施要領

(1) 調査実施手順	21
(2) 留意事項	22
(3) 調査票の管理	23

#### 4. データの入力と基礎的集計

(1) データ入力	25
(2) 基礎的集計：集計表の作成	29
(3) 集計の視覚化：グラフの作成	31
(4) その他の集計・分析例	35

## ■ 資料編：今年度調査の概要と結果

### (1) 『全国統一治安意識調査（平成 27 年）』概要

調査概要	資 1
調査票	資 4

### (2) 調査実施状況

調査実施施設・場所，曜日（都道府県別）	資 6
講習区分（都道府県別，×性別・年齢層）	資 8
回答者属性（都道府県別，性別，年齢層など）	資 10
無回答率（都道府県別，設問毎）	資 13

### (3) 全体の集計結果

単純集計（実数）	資 15
集計表（単純集計，年齢・性別とのクロス集計）	資 17
講習区分とのクロス集計	資 32
相関係数行列	資 41

### (4) 都道府県別結果

単純集計結果一覧（全体，都道府県別）	資 44
地域の治安意識と犯罪不安感，警察信頼度との関連	資 91

# 1. はじめに

---

## (1) 背景と目的

平成 26 年の刑法犯認知件数は約 121 万件で、戦後最多となった平成 14 年の約 285 万件から半数以下に減少し、治安情勢の回復には一定の成果が見られる。しかし、平成 24 年に内閣府が実施した「治安に関する特別世論調査」の結果をみると、「治安がよくなった」という回答が増加しているものの、いまだ治安に対して不安を抱く国民が少なくないことが分かる。

地域住民の安全安心を確保するためには、刑法犯認知件数の減少だけでなく、体感治安の向上、安心感の醸成が課題だといえるが、そのためには、まず地域住民の体感治安を正確に把握し、原因を検討して対策を講じていく必要がある。

各都道府県警察等においても、地域住民の治安意識を把握する調査が多数行われているが、調査方法、対象者、調査項目等が不統一であり、異なる地域や時期の調査結果を比較することはできない。このため、上記の内閣府の調査結果等の検証及び地域住民の体感治安の向上に関する「エビデンス（根拠）に基づく対策」の検討ができない状況にある。

また、現在行われている各都道府県警察の調査には、以下のような社会調査としての基本的な不備も多々見受けられる。

- 調査方法等による回答の偏り（バイアス）が未検討のものが多い
  - ◇ 異なる調査方法による異なる対象者への意識調査の結果は、たとえ同じ時期に同じ調査票を使って行っても、本来は異なる調査結果として扱うべきである。しかし、現状では、方法・対象者間の違いを検討することなく、一つの調査結果としてしまう例も少なくない（たとえば「県民意識」）。
    - ※ 調査票と回収目標数だけを決め、調査方法や対象者の選定方法等を検討していないことが原因と考えられる。
- 設問順序やワーディング、選択肢・回答方法などの検討が不十分な調査が多い
  - ◇ 設問の順序は、前の設問が後の設問の回答に影響を及ぼす（キャリーオーバー効果）ことがあるため、慎重に検討すべきである。しかし、現状では、設問順が検討されていない調査票も多々ある。
  - ◇ 「該当する選択肢を複数選ぶことができる設問（マルチアンサー、MA と略す）」は、選択肢の数が非常に多いと回答者によっては途中から読み飛ばしてしまうことがあるため、選択肢の順序の効果等が表れることが分かっている。このような設問は作るべきではないが、現状では多く見受けられる。また、回答者がふだん考えているとおりに答えてほしいのであれば、「あてはまるもの

2つに○をつけてください」等と選ぶ数を調査者側の都合で指定・制限するのは避けるべきだが、現状では多く見受けられる。

◇ 選択肢が恣意的と思われる設問もある。(治安意識の選択肢が「とてもよくなった」～「それほどよくなっていない」など)

※ そもそも客観的に住民意識を把握することが目的ではなく、振り込み詐欺被害防止や自転車盗難被害防止等の広報・啓発が主目的であり、その手段としてアンケート調査を使用していることが原因の一つと考えられる。

以上の現状を受けて、「住民の意識調査に関する有識者研究委員会」(以下「有識者委員会」と略す)では、各委員の専門的知見に基づき、地域間及び経年間の客観的比較が可能な「警察が行う治安等に関する住民意識調査」のあり方を検討した。

地域間、経年間の調査結果を客観的に比較できるようにするためには、調査票だけでなく、調査方法も同一とし、継続して行うことが重要である(同じ調査を継続することによって得られた結果の数値の上下で客観性を担保する)。

有識者委員会では、このような観点から、各都道府県警察が主体となって実施する『全国統一治安意識調査』を提案する。なお、本報告書にとりまとめた調査票や調査実施要領等は、平成27年8月に初めて実施された『全国統一治安意識調査』が今後行われる場合も使用される予定であり、各都道府県比較及び経年比較の当面の基準となるものである。

## (2) 調査方法

有識者委員会では、全国共通の調査方法として、運転免許更新申請者を対象とした「インタビュー型調査」が良いという結論になった。運転免許試験場・運転免許センター(以下「運転免許試験場等」)や免許更新を行う警察署を運転免許更新で訪れた市民に、その場で記入してもらう自記式の調査である。

この方法が良い理由は以下のとおりである。

- 警察が主体的に取り組むことができ、同じ条件で継続しやすい
  - ◇ 運転免許更新には年間1,700万人以上の人々が訪れる。運転免許更新は、警察しか持ちえない一般市民との貴重なインターフェイスである。
  - ◇ 未成年者及び高年齢層が少ないなどの偏りはあるが、どの都道府県においても、地域住民の意識調査の母集団としても大きな問題はない。
  - ◇ 運転免許試験場等で行う「インタビュー型調査」は、警察オリジナルの調査となる。オリジナルの調査を継続的に行っていけば、その結果の蓄積は

「警察独自の資産」となり、非常に大きな意義を持つ。

- ◇ どの都道府県警察でも同じように実施できる現実的な方法である。すでに、多くの都道府県警察で調査が行われており、なかには継続的な調査を行っている都道府県警察もある。
- ◇ 他の調査方法では捕捉が難しい若い世代などにも、無理なく回答してもらうことができるという大きなメリットもある。

- 住宅基本台帳等からの標本調査には次のような問題がある

- ◇ 意識調査の結果をもって「県民はこう考えている」と論じるためには、標本調査の場合、回収率、有効回答率が高いことが必須条件となる。しかし、現状では、郵送調査の場合は回収率が見込めず、回答してくれるのは協力的な人のみとなってしまっている。訪問面接調査では、調査員の存在に起因する回答の偏り（バイアス）、調査員の質・統一性等が問題になっている。
- ◇ 予算が必要になるため、調査を行う環境を整えるハードルが高い。また、経年調査は困難である。

- 警察でよく行われている調査方法で他に適当なものがない

- ◇ 県民モニター、町会・自治会等は各府県民を代表しているとは言えないし、また、各都道府県で抽出方法等が異なるため、地域間比較ができない。

警察オリジナルのインターフェイス型調査である『全国統一治安意識調査』（以下、本調査）では、調査方法を統一することで、地域間・経年間の比較可能性及び得られた都道府県ごとのデータの客観性を担保する。

この意味で、本調査にとって「調査方法の統一」は非常に重要である。ただし、その方法をあまり細かく規定すると、調査の実効性そのものが損なわれてしまう。「各都道府県警察に自らの調査として実施してもらうこと」を第一義に、統一された調査方法の中にも、各都道府県の実情に応じて柔軟に検討できる余地を残す。

なお、標本調査では、あらかじめ対象者を特定しているので「回収率」は重要な指標となる。しかし、本調査は対象者を特定しない調査なので「回収率」という概念はない。したがって、調査実施場所に調査期間内に免許更新に訪れた者の全数や、調査への協力を拒んだ人の人数などを把握して、「回収率」として示すのは誤りであり、この点に注意が必要である。

本調査の対象者は、運転免許試験場等に訪れた運転免許更新申請者である。免許更新の講習区分には「優良」「一般」「違反」「初回」「高齢者」の5つがあり、たとえば「高齢者」「初回」は年齢に大きな偏りがある。本調査の結果で各都道府県における代表制を担保するためには、都道府県ごとの年齢層別人口比率に概ね準じるよう、対象者の年齢



層を免許更新の講習区分から推測し、事前に割り付けるとよい。しかし、平成 27 年度に全国で行った『全国統一治安意識調査（平成 27 年）』の実施状況等からは、講習区分ごとの調査対象者数の決定や調査票の管理は、各都道府県警にとって負荷が非常に大きく、現実的ではないことが明らかになった。

この調査結果等を踏まえ、有識者委員会では、「都道府県警察における実施のしやすさ」及び「対象者の答えやすさ」を主眼に、本調査の基本的な方法を再検討した。結果は以下のとおりである（詳細は 3 章）。

● **調査実施場所** : **運転免許試験場等及び警察署**

- ◇ 運転免許試験場等は必ず会場の一つとするが、警察署については、各都道府県警察の判断で省いても構わない（全免許更新者に占める運転免許試験場等利用者の割合は概ね十分に高い）。ただし、警察署を省くと調査対象者の居住地域が著しく偏ってしまう場合などは、警察署も調査実施会場に加えることが望ましい。
- ◇ 運転免許試験場等が複数ある場合は、できるだけ複数の場所で行うことが望ましい。その場合、場所ごとの受講者数割合に概ね応じる形で、回収する調査票の割合を調整することが望ましい。
- ◇ 運転免許試験場等と警察署の双方で行う場合も同様で、回収する調査票の割合は、双方の受講者数割合に応じて決めることが望ましい。
- ◇ 以上を踏まえ、都道府県ごとに調査実施場所をある程度定め、継続的に調査を行う場合は、同じ場所で行うよう心がける。

● **調査対象者数** : **基本（下限）1,000 人・目標 2,000 人**

- ◇ 各都道府県につき基本 1,000 人、目標 2,000 人とするのが望ましい。
- ◇ 回収票数は、一般に、調査結果をどのような角度からどのような精度で検討するかによって決める。都道府県によって人口及び免許更新者数が異なるが、各都道府県の調査結果をそれぞれ独立のものとして扱うには、統計学的に、どこでも 1000 人以上の回収数があることが望ましい。本調査が目指すのは「全国の平均値の把握」というわけではないので、たとえば「東京都で 1,000 人なら、我が県では 500 人も必要ない」とはならない。

● **調査対象者** : **講習区分「優良」「一般」「違反」**

- ◇ 「優良」「一般」「違反」の合計が1,000人～2,000人になるようにする。『全国統一治安意識調査（平成27年）』において、「優良」「一般」「違反」は、地域の治安意識、犯罪不安感、環境認知の結果にほぼ差がみられなかったことから、これらの何れかのみを対象として今後実施することに差し支えない。
- ◇ 本調査は、同じ条件で継続して行うことが望ましいので、「実施しやすさ」は重要である。ある年は「優良」「一般」「違反」を対象とした調査、その次の年は実施しやすい「優良」のみと条件を変えてしまうより、最初から「優良」のみに絞るのも現実的である。
  - ※ ただし「優良」「一般」「違反」には次のような差異もある。
  - ※ 「優良」: 女性、高年齢、仕事をしていない傾向、居住年数が長い、持ち家・戸建、子ども・高齢者同居率が高い、防犯行動実行率が高い、警察信頼度がやや高い傾向（『全国統一治安意識調査（平成27年）』）。居住地域は調査会場の近辺が多い(平成26年予備調査)。
  - ※ 「違反」はほぼ全て「優良」の逆、「一般」はほぼ中間である。
- ◇ 本調査の結果は、都道府県民の縮図としてではなく、同じ場所で同じ対象を捕捉した定点観測の結果としてみるようにする。
- ◇ 「高齢者」「初回」を対象に含めるか否かは、各都道府県警察の判断による。ただし、警察庁において都道府県間の比較を行う際には「優良」「一般」「違反」の合計で行うので、「高齢者」「初回」は基本の1,000人には含めない。なお、免許更新者は年齢別人口比率に比べると若年層が多く高齢者が少ない。「高齢者」を意識的に調査対象に含めるようにすれば、人口比率に近づけることができる。また、「初回」は、他の調査方法では捕捉が難しい世代である。若い層の回答を得るには本調査の活用は非常に有効である。

● **調査時期** : **毎年秋頃／日曜を含む**

- ◇ 経年比較、地域間比較のためには、調査を行う時期・曜日などを、全国で可能な範囲で合わせることが望ましい。
- ◇ 時期は、秋を基本とする。
- ◇ 多様な層が免許更新を行う「日曜日」は、必ず調査実施日に入れる。
- ◇ 調査は毎年行うことが望ましい。

以上の基本的調査方法に従って、各都道府県警察で、経年調査を行うことができる具体的な手続きを決め、その手続きを各都道府県警察内で堅持することが望ましい。

## 2. 調査票

---

### (1) 調査票の設計方針

平成 26 年度の検討と予備調査、平成 27 年度の『全国統一治安意識調査（平成 27 年）』の実施状況や結果を踏まえ、多くの方にできるだけ容易に（無回答や矛盾回答なく）答えていただけることを目標に、調査の実施しやすさも加味して、調査票の設計方針を以下のとおりとした。

- 必須項目のみに絞った調査票を「標準版」、それ以外は「オプション項目」として整理する。別途、講習区分「高齢者」専用の「シニア版」を作成する。
  - ◇ 本調査は、回答可能な時間に限りがあるので、質問の量を減らすことが最優先課題である。調査項目が多いと設問を飛ばしてしまうケースが増えるほか、協力的な人、時間のある人だけが答えるというように回答者自体が偏ってしまう可能性が高い。
  - ◇ 「標準版」は、講習区分「優良」「一般」「違反」対象の調査票だが、もちろん「初回」を対象にしてもよい。しかし、講習区分「高齢者」については、さらに質問の量を減らし、文字を大きくした専用の調査票を用いるべきである。
  - ◇ 各都道府県警察において地域ごとの分析を行うには、対象者がどの地域に住んでいるか（郵便番号等）を聞く必要がある。しかし、分析可能なデータの整形、および実際の分析は難易度が高いため、「標準版」には含めず、オプション項目とした。
- マークシート方式ではなく、自記式を基本とする。
  - ◇ 一般に、自記式の方がマークシートに比べ記入しやすいため、回答者側のメリットは大きい。
    - ※ 『全国統一治安意識調査（平成 27 年）』はマークシート方式で行ったが、「回答しにくい」という不満が多く聞かれた。今後、マークシート方式にする場合は、大きな○を塗りつぶすのではなく、数字の上に縦棒を 1 本入れるなど、回答者負担の少ない方法の採用が望まれる。
  - ◇ マークシート方式は、データ入力にかかる負担軽減の効果が期待できるが、読み取り設備の仕様、用紙の種類などの調整が必須である。
    - ※ 『全国統一治安意識調査（平成 27 年）』では、データ読み込み時に予期せぬエラーが多発したため、最終的には手入力をする事となった。

- 調査票は、A3サイズ片面1枚を基本とする。
  - ◇ A4サイズ片面2枚にするとページをめくるなどの動作が入り所要時間が長くなる。また、A4サイズ両面1枚にすると、裏面の無回答率が高くなる。
  - ◇ ただし、机を用意できない場合等A3サイズを広げることができないときは、A4サイズの方が望ましいことから、A4サイズ両面1枚のバージョンも作成する。
  - ◇ なお、調査票の用紙は、白色ではなく淡色系の色紙が望ましい。印刷された文字が読みやすく、アンケート調査の回収率等の向上に資することが知られている。
  
- 該当する選択肢を複数選ぶことができる設問（MA、マルチアンサー）を避け、選択肢を1つ選ぶ設問（SA、シングルアンサー）とする。
  - ◇ 回答の精度も調査結果データの取扱いも、一般にMAよりSAが勝る。
    - ※ 全選択肢を読んでもらえる率、一つ一つに答えてもらえる率が上がる。ただし、このためMAよりSAの方が検出力が高くなる（該当する選択肢が増える傾向がある）ことに注意する必要がある。
  - ◇ 回答矛盾や無回答が生じにくく、また、選択肢の順序による結果への影響を考慮しなくて済む。
  
- 「自宅から徒歩約20分以内の地域」をイメージして回答してもらおう。
  - ◇ 「お住まいの地域」がどの範囲かの指定がないと、人によってどう捉えたかが分からないので、調査票冒頭に「ご自宅から徒歩でおおむね20分以内の地域をイメージしてお答えください。」と明記した。

## (2) 調査項目一覧

標準版（A3サイズ） \*シニア版との整合はデータ入力コード表（p.26-27）参照

調査項目		項目数	備考・注意事項
問1	講習区分	1項目	-
	性別	1項目	-
	年齢	1項目	-
	居住年数	1項目	-
問2	防犯行動の実行	6項目	● 「日頃から心がけているか否か」で聞く。
問3	地域の治安意識	1項目	● 「よくなったか」「悪くなったか」を聞く場合もあるが、今回は経年比較・地域間比較を前提としているので、現時点の認識のみを聞く方が適している。
問4	犯罪不安感（総合）	1項目	● 罪種を特定しない総合的な犯罪不安感も必要。
問5	犯罪不安感 （罪種別）	8項目	● 罪種別に聞くのは、対策検討上必要であるため。罪種は、概念を網羅的にまとめるのではなく、知りたい罪種をそのままダイレクトに聞く。 ● 各都道府県警察で他に聞きたい項目があれば、それぞれの判断で追加可能。
問6	環境認知（－要因）	7項目	● 体感治安との関係上重要な項目であり、地域間比較もできる。（－要因を見かける、＋要因を見かけないと、犯罪統制の認知度が低下し、被害リスク認知上昇を通じて犯罪不安感が高まることが分かっている。）
問7	環境認知（＋要因）	4項目	
問8	警察信頼度	1項目	● 「信頼できる-できない」で聞く。体感治安と関連がある項目であり、都道府県警察間の比較もできる。
問9	犯罪被害経験	1項目	● この1年間に、犯罪被害にあったことがあるか否かを聞く。
	自動車等所有	1項目	● 自動車・オートバイを所有しているか否かを聞く。
	自転車所有	1項目	● 自転車を所有しているか否かを聞く。
	携帯等所有	1項目	● 携帯電話やスマートフォンを所有しているか否かを聞く。
	住居の種類等	2項目	● 一戸建てか否か、持ち家（分譲マンションを含む）か否かを聞く。
	近所づきあい程度	1項目	● 近所づきあいの程度は、地域差、年齢差などが大きいことが分かっている。
	仕事	1項目	● フルタイムで仕事をしているか否かを聞く。
	単身	1項目	● 「一人住まい」か否かを聞く。
	高齢者との同居	1項目	● 「一人住まい」ではない人限定で、65歳以上の高齢者と同居しているか否かを聞く。
	子どもとの同居	1項目	● 「一人住まい」ではない人限定で、小学校6年生以下の子どもと同居しているか否かを聞く。

オプション項目

調査項目		項目数	備考・注意事項
問 2	防犯行動の実行	追加：1 項目	● 特殊詐欺対策
問 5	犯罪不安感 (罪種別)	追加：1 項目	● 殺人、強盗、放火
問 9	自主防犯活動 参加経験	追加：1 項目	● 地域住民による自主的な防犯活動への参加経験を聞く。
追加	犯罪被害経験 (罪種別)	10 項目	● 対策検討上、罪種別に分けて聞く。 ● 罪種は、犯罪不安感と合わせる。
追加	防犯情報の入手手段	7 項目	● この1年間に、それぞれの手段で情報を入手したか否かを聞く。
追加	郵便番号	1 項目	● 地域分析を行う上で必要となる「居住地域」を特定するために聞く。

### (3) 調査票

- 「お住まいの地域の治安に関するアンケート」標準版・A 3 ..... p. 11
- 「お住まいの地域の治安に関するアンケート」標準版・A 4 ..... p. 13
  
- 「お住まいの地域の治安に関するアンケート」シニア版・A 3 ..... p. 15
- 「お住まいの地域の治安に関するアンケート」シニア版・A 4 ..... p. 17
  
- 「お住まいの地域の治安に関するアンケート」オプション項目 ..... p. 19

# 「お住まいの地域の治安に関するアンケート」

●●県警察

平成〇年〇月

→ 「ご自宅から徒歩でおおむね20分以内の地域」をイメージして、問1から問9まで順番に、あてはまる数字や文字を○で かこむなどしてご回答ください。

回答の内容は、すべて統計的に処理し、回答者が特定されることはありません。回答は任意であり、回答結果が免許更新などに影響することは一切ありません。ご協力をお願いいたします。

問1 該当する数字に○をつけてください。

a) 本日の講習区分	1. 優良 2. 一般 3. 違反 4. 初回
b) 性別	1. 男性 2. 女性
c) 年齢	1. 29歳以下 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60-64歳 6. 65歳以上
d) 地域への居住年数(通算)	1. 5年未満 2. 5年以上10年未満 3. 10年以上20年未満 4. 20年以上

問2 あなたは、日頃から次のようなことを心がけていますか。該当する数字に○をつけてください。

	心がけている	心がけていない
a) 暗い道や、人通りのない場所をさける	1	2
b) 歩きながら携帯電話・スマートフォンなどの操作はしない	1	2
c) 外出時には戸じまりをする	1	2
d) 来客時は、身元が確認できるまで玄関をあけない	1	2
e) 自動車、オートバイを離れるときは、短時間でもカギをかける	1	2
f) 自転車を離れるときは、短時間でもカギをかける	1	2

問3 あなたは、お住まいの地域の治安をどの程度だとお感じですか。該当する数字に○をつけてください。

悪い 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5 よい

やや悪い 2      どちらともいえない 3      ややよい 4

問4 あなたは、お住まいの地域で、「犯罪被害にあうのではという不安」を感じますか。該当する数字に○をつけてください。

感じる 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5 感じない

やや感じる 2      どちらともいえない 3      あまり感じない 4

問5 あなたは、お住まいの地域で、次の各々の犯罪に対して「被害にあうのではという不安」を感じますか。該当する数字に○をつけてください。

	感じる	やや感じる	あまり感じない	感じない
a) 住宅へのどろぼう	1	2	3	4
b) 自動車、オートバイの盗難	1	2	3	4
c) 自転車の盗難	1	2	3	4
d) ふりこめ詐欺や悪質商法	1	2	3	4
e) すり、ひったくり、置引き	1	2	3	4
f) チカンや強制わいせつ	1	2	3	4
g) 子どもへのいたづら・つきまとい	1	2	3	4
h) 暴力(ケガをさせられる、なぐられるなど)	1	2	3	4

問6 あなたは、お住まいの地域で次のようなことを見かけますか。該当する数字に○をつけてください。

	見かける	見かけない
a) 空き家や空き店舗、荒れた空き地や公園	1	2
b) 夜、街灯が少なく暗いところ	1	2
c) 乗り捨てられた自転車やオートバイ	1	2
d) スプレーによる落書き	1	2
e) 路上に捨てられたゴミやタバコのすいがら	1	2
f) 夜、たむろしている若者	1	2
g) 大声でさわいでいる人、けんか、路上での飲酒など	1	2

問7 あなたは、お住まいの地域でパトロールなどを見かけますか。該当する数字に○をつけてください。

	見かける	見かけない
a) 住民による防犯パトロール	1	2
b) 防犯パトロール車(青色の回転灯をのせた車両)	1	2
c) パトロールしている警察官・パトカー	1	2
d) 商店街、公園、駅など公共の場所に設置された防犯カメラ	1	2

問8 あなたは、お住まいの地域の警察を「信頼できる」とお感じですか。該当する数字に○をつけてください。

信頼できない 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5 信頼できる

やや信頼できない 2      どちらともいえない 3      やや信頼できる 4

問9 「はい」か「いいえ」に○をつけてください。

a) この1年間に、犯罪の被害にあったことがある(同居家族を含む)	はい・いいえ
b) 自動車やオートバイを持っている	はい・いいえ
c) 自転車を持っている	はい・いいえ
d) 携帯電話やスマートフォンを持っている	はい・いいえ
e) 今の住まいは、一戸建てである	はい・いいえ
f) 今の住まいは、持ち家である(分譲マンションを含む)	はい・いいえ
g) 近所づきあいは、ほとんどない	はい・いいえ
h) フルタイムで仕事をしている	はい・いいえ
i) 一人住まいである	はい・いいえ

※「一人住まい」以外の方はお答えください。

i-1) 65歳以上の高齢者と同居している	はい・いいえ
i-2) 小学校6年生以下の子どもと同居している	はい・いいえ

ご協力、ありがとうございました。



# 「お住まいの地域の治安に関するアンケート」

〇〇県警察

↳ 「ご自宅から徒歩でおおむね20分以内の地域」をイメージして、  
問1から問9まで順番にご回答ください。

回答の内容は、すべて統計的に処理し、回答者が特定されることはありません。回答は任意であり、回答結果が免許更新などに影響することは一切ありません。ご協力をお願いいたします。

問1 該当する数字に○をつけてください。

a) 本日の講習区分	1. 優良	3. 違反
	2. 一般	4. 初回
b) 性別	1. 男性	2. 女性
c) 年齢	1. 29歳以下	5. 60-64歳
	2. 30代	6. 65歳以上
	3. 40代	
	4. 50代	
d) 地域への居住年数(通算)	1. 5年未満	
	2. 5年以上10年未満	
	3. 10年以上20年未満	
	4. 20年以上	

問2 あなたは、日頃から次のようなことを心がけていますか。該当する数字に○をつけてください。

	心がけて いる	心がけて いない
a) 暗い道や、人通りのない場所をさける	1	2
b) 歩きながら携帯電話・スマートフォンなどの操作はしない	1	2
c) 外出時には戸じまりをする	1	2
d) 来客時は、身元が確認できるまで玄関をあけない	1	2
e) 自動車、オートバイを離れるときは、短時間でもカギをかける	1	2
f) 自転車を離れるときは、短時間でもカギをかける	1	2

問3 あなたは、お住まいの地域の治安をどの程度だとお感じですか。該当する数字に○をつけてください。

	どちら とも いえない	どちら も よい
悪い	やや 悪い	やや よい
1	2	3
4	5	

問4 あなたは、お住まいの地域で、「犯罪被害にあうのではという不安」を感じますか。該当する数字に○をつけてください。

	どちら とも いえない	あまり 感じない
感じる	やや 感じる	あまり 感じる
1	2	3
4	5	

問5 あなたは、お住まいの地域で、次の各々の犯罪に対して「被害にあうのではという不安」を感じますか。該当する数字に○をつけてください。

	感じる	やや感じる	あまり感じない	感じない
a) 住宅へのどろぼう	1	2	3	4
b) 自動車、オートバイの盗難	1	2	3	4
c) 自転車の盗難	1	2	3	4
d) ふりこめ詐欺や悪質商法	1	2	3	4
e) すり、ひったくり、置引き	1	2	3	4
f) チカンや強制わいせつ	1	2	3	4
g) 子どもへのいたづら・つきまとい	1	2	3	4
h) 暴力(ケガをさせられる、なぐられるなど)	1	2	3	4

裏面につづく

問6 あなたは、お住まいの地域で次のようなことを見かけますか。該当する数字に○をつけてください。

	見かける	見かけない
a) 空き家や空き店舗、荒れた空き地や公園	1	2
b) 夜、街灯が少なく暗いところ	1	2
c) 乗り捨てられた自転車やオートバイ	1	2
d) スプレーによる落書き	1	2
e) 路上に捨てられたゴミやタバコのすいがら	1	2
f) 夜、たむろしている若者	1	2
g) 大声でさわいでいる人、けんか、路上での飲酒など	1	2

問7 あなたは、お住まいの地域でパトロールなどを見かけますか。該当する数字に○をつけてください。

	見かける	見かけない
a) 住民による防犯パトロール	1	2
b) 防犯パトロール車 (青色の回転灯をのせた車両)	1	2
c) パトロールしている警察官・パトカー	1	2
d) 商店街、公園、駅など公共の場所に設置された防犯カメラ	1	2

問8 あなたは、お住まいの地域の警察を「信頼できる」とお感じですか。該当する数字に○をつけてください。

信頼できない      やや信頼できない      どちらともいえない      やや信頼できる      信頼できる  
 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5

問9 「はい」か「いいえ」に○をつけてください。

- a) この1年間に、犯罪の被害にあったことがある(同居家族を含む)      はい・いいえ
- b) 自動車やオートバイを持っている      はい・いいえ
- c) 自転車を持っている      はい・いいえ
- d) 携帯電話やスマートフォンを持っている      はい・いいえ
- e) 今の住まいは、一戸建てである      はい・いいえ
- f) 今の住まいは、持ち家である(分譲マンションを含む)      はい・いいえ
- g) 近所づきあいは、ほとんどない      はい・いいえ
- h) フルタイムで仕事をしている      はい・いいえ
- i) 一人住まいである      はい・いいえ

※「一人住まい」以外の方はお答えください。

- i-1) 65歳以上の高齢者と同居している      はい・いいえ
- i-2) 小学校6年生以下の子どもと同居している      はい・いいえ

**ご協力、ありがとうございました。**

# 「お住まいの地域の治安に関するアンケート」

●●県警察

平成〇年〇月

→「ご自宅から徒歩でおおむね20分以内の地域」をイメージして、問1から問7まで順番に、あてはまる数字や文字を○でかこむなどしてご回答ください。

回答の内容は、すべて統計的に処理し、回答者が特定されることはありません。回答は任意であり、回答結果が免許更新などに影響することは一切ありません。ご協力をお願いいたします。

問1 該当する数字に○をつけてください。

a) 性別	1. 男性 2. 女性
b) 年齢	1. 74歳以下 2. 75～79歳 3. 80歳以上
c) 地域への 居住年数 (通算)	1. 5年未満 2. 5年以上10年未満 3. 10年以上20年未満 4. 20年以上

問2 あなたは、日頃から次のようなことを心がけていますか。

「いる」か「いない」に○をつけてください。

	心がけている	心がけていない
a) 暗い道や、人通りのない場所をさける	いる	いない
b) 外出時には戸じまりをする	いる	いない
c) 来客時は、身元が確認できるまで玄関をあけない	いる	いない
d) 自動車、オートバイを離れるときは、短時間でもカギをかける	いる	いない
e) 自転車を離れるときは、短時間でもカギをかける	いる	いない

問3 あなたは、お住まいの地域の治安をどの程度だとお感じですか。該当する数字に○をつけてください。

どちら  
 やや とも やや  
 悪い 悪い いえない よい よい  
 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5

問4 あなたは、「犯罪被害にあうのではという不安」を感じますか。該当する数字に○をつけてください。

どちら  
 やや とも あまり  
 感じる 感じる いえない 感じない 感じない  
 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5

問5 あなたは、次の各々の犯罪に対して「被害にあうのではという不安」を感じますか。該当する数字に○をつけてください。

	感じる	感じる やや	感じない あまり	感じない
a) 住宅へのどろぼう	1	2	3	4
b) 自動車、オートバイの盗難	1	2	3	4
c) 自転車の盗難	1	2	3	4
d) ふりこめ詐欺や悪質商法	1	2	3	4
e) すり、ひったくり、置引き	1	2	3	4
f) 暴力(ケガをさせられる、なくられるなど)	1	2	3	4

問6 あなたは、お住まいの地域の警察を「信頼できる」とお感じですか。該当する数字に○をつけてください。

やや どちら やや  
 信頼 信頼 とも 信頼 信頼  
 できない できない いえない できる できる  
 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5

問7 「はい」か「いいえ」に○をつけてください。

a) この1年間に、犯罪の被害にあったことがある (同居家族を含む)	はい・いいえ
b) 自動車やオートバイを持っている	はい・いいえ
c) 自転車を持っている	はい・いいえ
d) 携帯電話やスマートフォンを持っている	はい・いいえ
e) 今の住まいは、一戸建てである	はい・いいえ
f) 今の住まいは、持ち家である (分譲マンションを含む)	はい・いいえ
g) 近所づきあいは、ほとんどない	はい・いいえ
h) 一人住まいである	はい・ <u>いいえ</u>

※「一人住まい」以外の方はお答えください。

h-1) 小学校6年生以下の子どもと同居している	はい・いいえ
--------------------------	--------

ご協力、ありがとうございました。



問5 あなたは、次の各々の犯罪に対して「被害にあうのではという不安」を感じますか。該当する数字に○をつけてください。

	感じる	やや感じる	あまり感じない	感じない
a) 住宅へのどろぼう	1	2	3	4
b) 自動車、オートバイの盗難	1	2	3	4
c) 自転車の盗難	1	2	3	4
d) ふりこめ詐欺や悪質商法	1	2	3	4
e) すり、ひったくり、置き引き	1	2	3	4
f) 暴力(ケガをさせられる、なぐられるなど)	1	2	3	4

問6 あなたは、お住まいの地域の警察を「信頼できる」とお感じですか。該当する数字に○をつけてください。

信頼できない 1      やや信頼できない 2      どちらともいえない 3      やや信頼できる 4      信頼できる 5

問7 「はい」か「いいえ」に○をつけてください。

a) この1年間に、犯罪の被害にあったことがある (同居家族を含む)	はい・いいえ
b) 自動車やオートバイを持っている	はい・いいえ
c) 自転車を持っている	はい・いいえ
d) 携帯電話やスマートフォンを持っている	はい・いいえ
e) 今の住まいは、一戸建てである	はい・いいえ
f) 今の住まいは、持ち家である(分譲マンションを含む)	はい・いいえ
g) 近所づきあいは、ほとんどない	はい・いいえ
h) 一人住まいである	はい・ <u>いいえ</u>

※「一人住まい」以外の方はお答えください。

h-1) 小学校6年生以下の子どもと同居している	はい・いいえ
--------------------------	--------

**ご協力、ありがとうございました。**

## 「お住まいの地域の治安に関するアンケート」 オプション項目

問2 あなたは、日頃から次のようなことを心がけていますか。(○はそれぞれ一つ)

	心がけている	心がけていない
@) ふりこめ詐欺や悪質商法に注意するよう、家族で話をする (同居していない家族を含む)	1	2

問5 あなたは、お住まいの地域で、次の各々の犯罪に対して「被害にあうのではという不安」を感じますか。該当する数字に○をつけてください。

	感じる	やや感じる	あまり感じない	感じない
@) 殺人、強盗、放火	1	2	3	4

問9 「はい」か「いいえ」に○をつけてください。

@) 地域住民による自主的な防犯活動に参加したことがある	はい・いいえ
------------------------------	--------

問● あなた自身やご家族は、この1年間に、お住まいの地域で次の犯罪被害にあったことがありますか。「ある」か「ない」に○をつけてください。

	被害にあった ことがある	被害にあった ことはない
a) 住宅へのどろぼう	ある	ない
b) 自動車、オートバイの盗難	ある	ない
c) 自転車の盗難	ある	ない
d) ふりこめ詐欺や悪質商法	ある	ない
e) すり、ひったくり、置き引き	ある	ない
f) チカンや強制わいせつなど	ある	ない
g) 子どもへのいたづら、つきまとい	ある	ない
h) 暴力(ケガをさせられる、なぐられるなど)	ある	ない
i) 殺人、強盗、放火	ある	ない
j) その他 ( )		

問● あなたは、この1年間に、犯罪にあわないようにするための注意事項に関する情報を、下記の手段でご覧になったことはありますか。「ある」か「ない」に○をつけてください。

	ご覧になった ことがある	ご覧になった ことはない
a) 新聞、雑誌・書籍、テレビ・ラジオ	ある	ない
b) インターネット(携帯電話、スマートフォンを含む)	ある	ない
c) 警察の広報紙	ある	ない
d) 警察や都道府県・市区町村の電子メール(安全・安心メールなど)	ある	ない
e) 都道府県や市区町村、自治会・町内会の広報	ある	ない
f) 学校の広報(電子メールを含む)	ある	ない
g) 口コミ(人から聞いた)	ある	ない

問● ご自宅の郵便番号をご記入ください。(お住まいの地域を知るためにおうかがいします)

□	□	□	-	□	□	□	□
---	---	---	---	---	---	---	---

### 3. 調査実施要領

#### (1) 調査実施手順

① 使用する調査票を決める

◇ オプション項目又はオリジナルの項目が必要な場合は、「標準版」に加えて調査票を作成する。

※ 講習区分「高齢者」を対象に含める場合、「シニア版」についても同様の検討を行う。

② 調査実施時期、場所、対象者（講習区分）を決める

◇ 免許に関する業務に支障がないよう、運転免許業務担当所属と早めに調整を行う。

◇ 場所は、運転免許試験場等は必ず入れるが、警察署は省いても構わない。ただし、警察署を省くと調査対象者の居住地が著しく偏ってしまう場合などは、警察署も調査実施会場に加える。

◇ 回答する場所（机がある教室などが望ましい）を決め、その環境に応じて、調査票のサイズ（できればA3サイズ）を決定する。

◇ 「優良」「一般」「違反」のどの講習区分を対象とするのかを決める。さらに、対象者に「初回」「高齢者」も含めるか否かを決める。

◇ 複数の場所で行う場合、「優良」「一般」「違反」の合計で1,000人～2,000人の回収が行なえるよう、場所別の回収数割合を決める。

※ 下表は検討例。目標回収総数、●○の数値を決め、実施場所を書き込み、空欄に目標回収数を各々記載する。

【例】

【目標回収数】	「優良」，「一般」，「違反」
運転免許試験場等（合計）	●% ○件
A 運転免許試験場（※※市）	
B 運転免許センター（※※市）	
警察署（合計）	●% ○件
C 警察署（※※市）	
D 警察署（※※市）	
合計	（1,000人～2,000人）



### ③ 調査の準備を行う

- ◇ 調査日を決め、調査実施場所職員と調査段取り等を確認する。
  - ※ 日曜日は必ず含めること。
- ◇ 調査票、調査票回収箱、筆記具、調査記入時に使用する机・椅子などを必要に応じて準備する。

### ④ 調査の実施

- ◇ 簡単な説明を行いながら調査票と筆記具を配布し、調査を実施する。
  - ※ 次項（２）の留意事項をよく読んで実施すること。
- ◇ 記入済みの調査票は、調査実施場所ごとに回収する。調査実施日も記録しておく。
  - ※ 調査実施場所は、具体名を記録しておく。調査票ごとに分かるよう記録しておく必要があるが、束ねて記すのでもよい。
  - ※ 調査実施日は、曜日も含め、調査票ごとに分かるよう記録しておく。  
(束ねて記すのでもよい)

## (2) 留意事項

### ① 運転免許更新に関する業務に支障がないよう十分に留意する

- ◇ 講習時間中に調査を実施しない。
- ◇ 調査実施時は、対象者に対して、
  - ・本調査への協力は任意であること
  - ・無記名であり回答は統計的に処理されるのでプライバシーを侵害することはないこと
  - ・回答しないからといって自らの免許証の更新等には全く影響しないことなどを確実に説明する。
- ◇ 調査は、調査実施主体の担当官が運転免許試験場等に赴いて実施する。

### ② 対象者は、調査期間内に調査実施場所を訪れた運転免許更新申請者全てとする（ただし、各々の目標回収数に応じる）

- ◇ 対象者選定の客観性を担保するため、調査員が対象者を恣意的に選定してはならない。対象者個々人に調査員が声をかけて調査をお願いするのではなく、講習会場である教室などで一斉に調査依頼を行うことが望ましい。
  - ※ 運転免許試験場等で調査を実施する場合、あらかじめ性・年代等に対象者を個別に調整することも可能ではあるが、本調査では、対象者の調整は講習区分のみとし、その他の属性は成り行きに任せることとする。
  - ※ 「高齢者」を対象とする場合、「高齢者」は基本的に調査実施場所では

講習を受けないので個別に声をかけることになる。その場合も、調査員が恣意的に選ぶのではなく、可能な限り、目標回収数に達するまで、全員に声をかけることが望ましい。

③ 調査会場は机のある教室・講習室であることが望ましい

- ◇ 机がある教室で行った方が、回答時間が短く、スムーズに回答できる傾向がある。また、A3サイズ片面の調査票が使用できる。
- ◇ ロビーなどで調査を実施する場合は、アンケート記入用の机・椅子を事前に用意しておくべきであるが、机の用意が不可能な場合は、クリップボード等で代用してもよい。

④ 調査員の存在、発言が回答に影響しないように配慮する

- ◇ 回答者が、自分の意志で自由にアンケートに回答できる環境を担保する（調査員は回答者の横に立たない）。
- ◇ 回答者から調査票の内容等について質問があった場合は、漢字の読み方等形式的なものを除き、調査対象者の判断に任せる。

⑤ 回答者のプライバシーに配慮する

- ◇ 記入済みの調査票を回収する際は、回収箱を利用するなど、他者（調査員を含む）から見えないようにする。

### (3) 調査票の管理

① 調査実施後、実施場所別に、回収した調査票を確認し、通し番号を付ける。

**【調査票確認時の注意】**

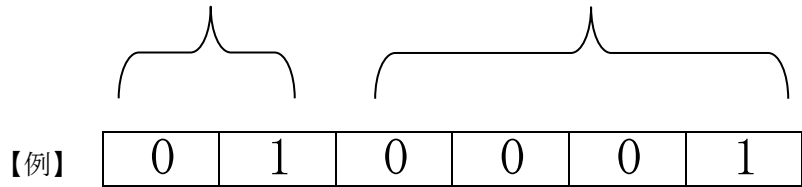
- ◇ 実施日・実施場所ごとに行う。（実施日・実施場所は後にデータ化するので、分からなくならないようまとめて記載しておく。）
- ◇ ほとんど無回答の場合は、明らかな無効票として省く。

**【ナンバリング（通し番号をつける）】**

- ◇ ナンバリングは、調査票と入力データとの対応をとるために必要不可欠である。番号がついていないと、後にデータチェック等ができなくなる。
- ◇ 番号は、その調査で回収した全調査票の中で唯一つしかない固有の記号である必要がある。実施場所を表す数字を先頭につけ、続けて4桁の通し番号をつけると管理しやすい（全部で6桁となる）。

実施場所

実施場所ごとの通し番号



最初の2つの数字を実施場所ごとに割り振る。連続している必要はなく、たとえば「運転免許試験場等」を01～09、「警察署」を51～99などと決めておくと、後々分類が必要となった場合に役立つ。  
一か所で行う場合は「実施場所」番号は不要である。

- ◇ 講習区分「高齢者」も対象とする場合など、異なる調査票を用いるケースについては別途、通し番号をふる。
- ◇ 通し番号は、スタンプするごとに数字が進む「ナンバリング・スタンプ」を使用すると容易に付すことができる。
- ◇ 調査日が何日にわたる場合、以下の表を作成して、通し番号を管理することが望ましい。

【例】

	A 試験場	B 試験場	C 警察署	D 警察署
回収目標数	※※人	※※人	※※人	※※人
※月※日 (日)	120 人 100001～ 100120	80 人 200001～ 200080	30 人 010001～ 010030	20 人 020001～ 020020
累計	120 人	80 人	30 人	20 人
※月※日 (月)	80 人 100121～ 100200	25 人 200081～ 200105	25 人 010031～ 010055	70 人 020021～ 020070
累計	200 人	105 人	55 人	90 人
合計				

※ 調査前に通し番号をふると、個人を識別されると感じた回答者が正しく回答しない可能性があるから、調査票の通し番号は必ず調査後に付す。

実施場所別の回収目標数を上回った時点で、各場所の調査を終了する。

## 4. データの入力と基礎的集計

---

### (1) データ入力

- ① 「専門入力業者への業務委託」又は「担当者自ら入力」のいずれかを選択する。
  - ◇ 担当者がデータ入力に不慣れな場合、入力ミスが起りやすいので、専門入力業者に業務委託をすることが望ましい。
  - ◇ 業務委託の際は「ベリファイ・チェック」を指定すること。
    - ※ 「ベリファイ・チェック」とは、入力作業を二度行って、2つの入力ファイルの不一致箇所をチェックすること。2回の入力は、通常、別の作業者が行う。

<以下、担当者自らで入力する場合について記す>

- ② 調査終了後、次ページ表にしたがって、「入力フォーマット」にデータ入力を行う。
  - ◇ 調査票1件につき一行の入力となる。
  - ◇ 調査結果だけでなく、以下のデータも入力する。一件一件入力するのではなく、まとめて入力するのがよい。
    - (ア) 通し番号（前項に記載）
    - (イ) 調査実施場所（前項の実施場所コード及びその施設名）
    - (ウ) 調査実施日（年、月日、曜日）
  - ◇ 各設問の回答は、1つの数字（半角）を入力する。
    - ※ 複数の○がついている場合、数字と数字の間に○がついている場合は入力しない（無回答として扱う）。

【データ入力コード表 1/2】 \* 調査票ごとに全コードを入力（無回答以外）

項目名	問	入力する数字や文字	備考
通し番号	-	調査票にふった記号	
調査実施場所コード	-	調査票にふった調査実施場所コード（2桁の数字など）	
調査実施場所名	-	調査を実施した場所の施設名称（文字入力）	
調査実施日_年	-	西暦で記載	
調査実施日_月日	-	四桁の数字で記載（10月1日→1001）	
調査実施日_曜日	-	日、月、火、水、木、金、土	
講習区分	Q1-a	1～4（優良、一般、違反、初回）	シニア版なし 高齢は5
性別	Q1-b	「男性」→1、「女性」→2	シニア版 Q1-a
年齢	Q1-c	1～6（29歳以下～65歳以上）	シニア版 Q1-b
居住年数	Q1-d	1～4（5年未満～20年以上）	シニア版 Q1-c
対策_暗い道避ける	Q2-a	「心がけている」→1、「いない」→2	シニア版 Q2-a
対策_歩行時携帯等操作	Q2-b	「心がけている」→1、「いない」→2	シニア版なし
対策_戸締り実施	Q2-c	「心がけている」→1、「いない」→2	シニア版 Q2-b
対策_来客身元確認	Q2-d	「心がけている」→1、「いない」→2	シニア版 Q2-c
対策_自動車等施錠	Q2-e	「心がけている」→1、「いない」→2	シニア版 Q2-d
対策_自転車施錠	Q2-f	「心がけている」→1、「いない」→2	シニア版 Q2-e
地域の治安意識	Q3	1～5（悪い～よい）	シニア版 Q3
犯罪不安感_総合	Q4	1～5（感じる～感じない）	シニア版 Q4
犯罪不安感_侵入盗	Q5-a	1～4（感じる～感じない）	シニア版 Q5-a
犯罪不安感_乗物盗	Q5-b	1～4（感じる～感じない）	シニア版 Q5-b
犯罪不安感_自転車盗	Q5-c	1～4（感じる～感じない）	シニア版 Q5-c
犯罪不安感_特殊詐欺等	Q5-d	1～4（感じる～感じない）	シニア版 Q5-d
犯罪不安感_携行品盗	Q5-e	1～4（感じる～感じない）	シニア版 Q5-e
犯罪不安感_性的犯罪	Q5-f	1～4（感じる～感じない）	シニア版なし
犯罪不安感_子ども	Q5-g	1～4（感じる～感じない）	シニア版なし
犯罪不安感_暴力	Q5-h	1～4（感じる～感じない）	シニア版 Q5-f

【データ入力コード表 2/2】 \* 調査票ごとに全コードを入力（無回答以外）

項目名	問	入力する数字や文字	備考
環境_空き家・空き地	Q6-a	「見かける」→1、「見かけない」→2	シニア版なし
環境_暗い所	Q6-b	「見かける」→1、「見かけない」→2	シニア版なし
環境_乗捨自転車等	Q6-c	「見かける」→1、「見かけない」→2	シニア版なし
環境_スプレー落書	Q6-d	「見かける」→1、「見かけない」→2	シニア版なし
環境_路上ゴミ	Q6-e	「見かける」→1、「見かけない」→2	シニア版なし
環境_夜間たむろ若者	Q6-f	「見かける」→1、「見かけない」→2	シニア版なし
環境_大声・けんか	Q6-g	「見かける」→1、「見かけない」→2	シニア版なし
環境_住民パトロール	Q7-a	「見かける」→1、「見かけない」→2	シニア版なし
環境_青パト	Q7-b	「見かける」→1、「見かけない」→2	シニア版なし
環境_警ら	Q7-c	「見かける」→1、「見かけない」→2	シニア版なし
環境_防犯カメラ	Q7-d	「見かける」→1、「見かけない」→2	シニア版なし
警察信頼度	Q8	1～5（信頼できない～信頼できる）	シニア版 Q6
犯罪被害経験	Q9-a	「はい」→1、「いいえ」→2	シニア版 Q7-a
自動車等所有	Q9-b	「はい」→1、「いいえ」→2	シニア版 Q7-b
自転車所有	Q9-c	「はい」→1、「いいえ」→2	シニア版 Q7-c
携帯等所有	Q9-d	「はい」→1、「いいえ」→2	シニア版 Q7-d
住居_戸建	Q9-e	「はい」→1、「いいえ」→2	シニア版 Q7-e
住居_持ち家	Q9-f	「はい」→1、「いいえ」→2	シニア版 Q7-f
近所づきあいなし	Q9-g	「はい」→1、「いいえ」→2	シニア版 Q7-g
仕事	Q9-h	「はい」→1、「いいえ」→2	シニア版なし
単身	Q9-i	「はい」→1、「いいえ」→2	シニア版 Q7-h
同居_高齢者	Q9-i-1	「はい」→1、「いいえ」→2	シニア版なし
同居_子ども	Q9-i-2	「はい」→1、「いいえ」→2	シニア版 Q7-h-1

- ③ 入力したデータのチェックを行う。
- ◇ 入力ミスは高い確率で起こるので、データチェックは必ず行わなければならない。
  - ◇ 「ベリファイ・チェック」がもっとも望ましい。
  - ◇ ベリファイ・チェックが行えない場合は、入力後、調査票を一人が読み上げ、もう一人が入力したデータをチェックするなどの作業を慎重に行う。
    - ※ この場合、全てまとめて行うより、50票～100票ずつなどに分けて行うことが望ましい。
  - ◇ 最後に、エクセルのオートフィルタ機能を用いて、不適当な入力がないかをチェックする。不適当な入力があった場合、該当する調査票と照合して正しい入力に直す。
    - ※ 不適当な入力とは、たとえば「1～5」までの半角数字しか入力しないはずの列に「6」や「11」などの数字が入力されている場合など。
    - ※ 特に「1」を入力しようとして二度入力してしまい「11」となってしまう、該当セルに「1」隣のセルに「2」を入力しようとして「12」となってしまうなどの誤入力は起こりやすい。
  - ◇ あらかじめ、エクセルの「データの入力規制」機能を活用し入力可能な数値を制限しておくことで、選択肢にない数値を入力するミスは回避することができる。
- ④ オプション項目の「郵便番号」を設問に盛り込んだ場合、郵便番号のままでは集計・分析に利用できないため、利用目的に応じたデータ変換を行う。
- ◇ 「分析を行いたい地域区分」と「郵便番号」が対応づけられて整理されたリストを所有している場合は、そのデータを用いる。
  - ◇ 日本郵便 Web サイト (<http://www.post.japanpost.jp/zipcode/download.html>) で提供されている郵便番号データ (CSV ファイル) を用いると、「市町村名」「町域名」のデータに変換することができる。
    - ※ 郵便番号と市町村・町域名が一対一対応になっていない場合があるため、データ変換を行う際は注意が必要。

## (2) 基礎的集計：集計表の作成

平成 26 年に予備調査を実施した埼玉県の事例をモデルとして、以下に集計結果のとりまとめ方法を示す。

① 「どのような人が回答したか」、「どのような回答が多いか」、「どのように回答が分かれているか」を把握できるよう、データを集計し、集計表を作成する。

☆ 設問ごとに集計したものを「単純集計」、例えば、Q1 の回答は年代別にどのように回答が分かれているかを集計したものを「クロス集計」という。

※ 「クロス集計」をエクセルで行う際は、「ピボットテーブル機能」又は「countif 関数」「countifs 関数」を用いるのが一般的である。（これら機能・関数の使い方については、Excel ヘルプの「ピボットテーブルを作成する」「COUNTIF 関数」「COUNTIFS 関数」を参照）

☆ 「クロス集計」は 2 つの設問を掛け合わせた集計であり非常に多くの種類があるが、基礎的集計としては、「単純集計」に加え、まずは「性別」「年代」別のクロス集計をとるべきである（下記表例）。

### 【集計表（度数）の例】

問 3 地域の治安意識 「あなたは、お住まいの地域の治安をどの程度だとお感じですか。」

		悪い	2	どちらとも いえない	4	よい	小計	無回答	合計
単純集計	全体	27	102	348	328	157	962	92	1,054
性別	男	21	66	224	224	117	652	70	722
	女	6	36	118	101	37	298	22	320
	性別不明	0	0	6	3	3	12	0	12
年代	10～20代	6	24	70	72	31	203	16	219
	30代	10	15	71	71	40	207	18	225
	40代	8	30	87	58	33	216	18	234
	50代	3	24	73	64	20	184	26	210
	60代	0	6	29	45	21	101	10	111
	70歳以上	0	3	10	15	11	39	3	42
	年代不明	0	0	8	3	1	12	1	13



◇ このような度数集計表に加え、行ごとに「割合 (%)」の表も作成すると分かりやすい。この場合の母数は、「無回答」を除いた小計とする。

※ 本調査の場合、%表記は原則「整数」である。調査対象者の全体数が1,000人程度の場合には、小数点以下の数値はほとんど意味がない。

※ 「差がある」「関連がある」というためには、統計的仮説検定を行う必要がある。統計的検定を行わない場合、小数点以下の割合はもちろん、数%の差など、小さな数字は深読みせず、大まかな傾向をとらえることが重要である。

【集計表 (%) の例】

問3 地域の治安意識 (%)

		悪い	2	どちらとも いえない	4	よい
単純集計	全体	3%	11%	36%	34%	16%
性別	男	3%	10%	34%	34%	18%
	女	2%	12%	40%	34%	12%
	性別不明	0%	0%	50%	25%	25%
年代	10～20代	3%	12%	34%	35%	15%
	30代	5%	7%	34%	34%	19%
	40代	4%	14%	40%	27%	15%
	50代	2%	13%	40%	35%	11%
	60代	0%	6%	29%	45%	21%
	70歳以上	0%	8%	26%	38%	28%
	年代不明	0%	0%	67%	25%	8%

② 調査実施場所の所在地、調査実施日、講習区分による差についてもデータを集計し、同じように集計表を作成する。

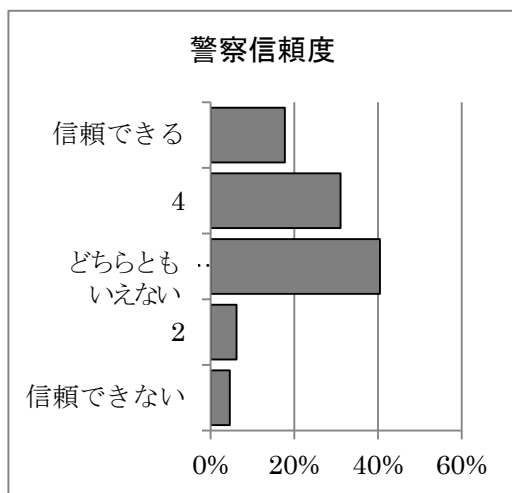
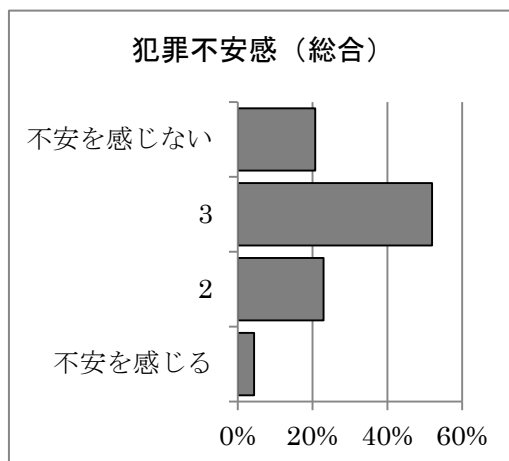
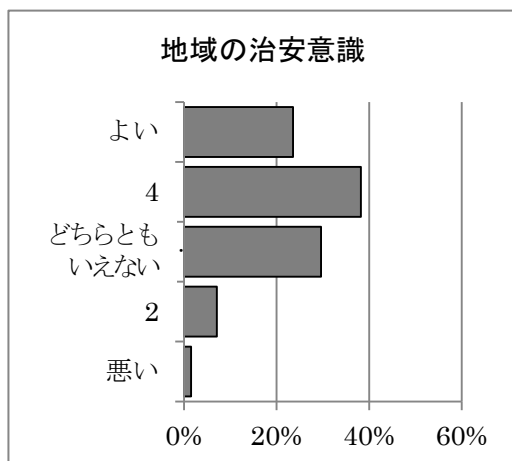
◇ 集計表から、予想外の結果はなかったかをチェックする。

### (3) 集計の視覚化：グラフの作成

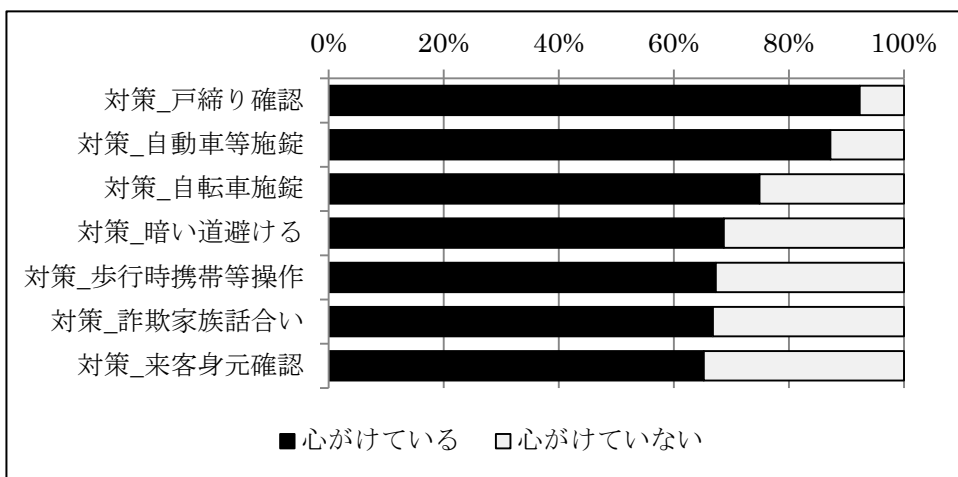
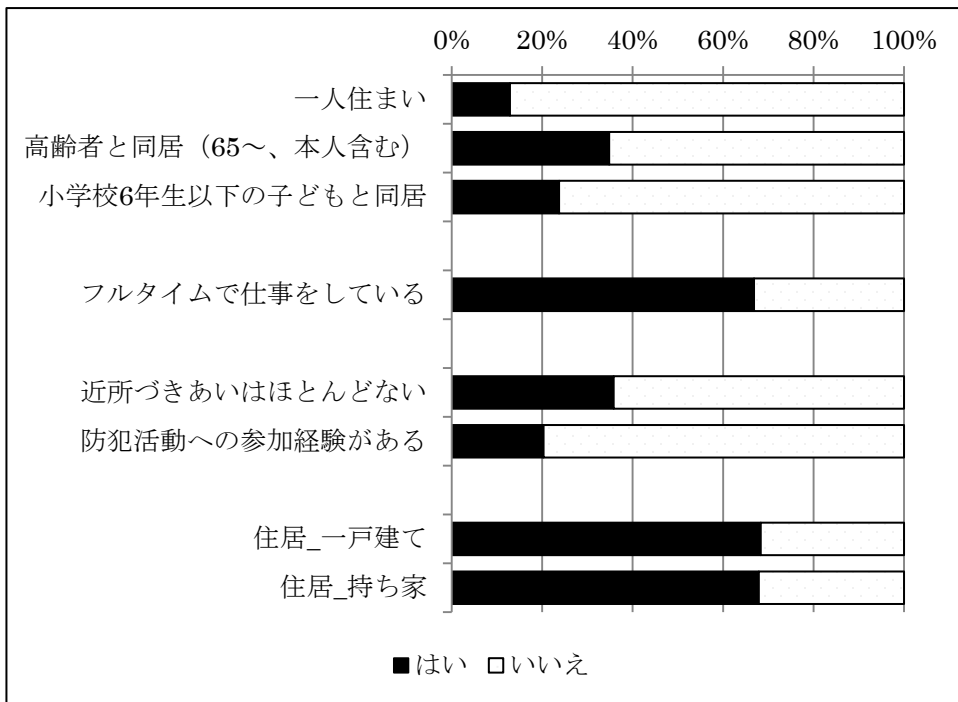
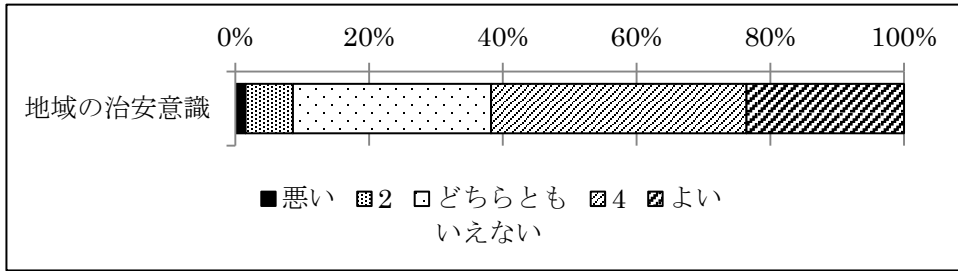
① 「どのように回答が分かれているか（データのばらつき）」を視覚的に把握できるよう、必要に応じてグラフを作成する。

- ◇ データのばらつきを把握するには、一般に「ヒストグラム」や「帯グラフ」が適当である。「円グラフ」は設問間の比較がしにくいのであまり適当でない。
- ◇ 無回答の扱いを決めておく必要がある。一般に、他の結果と比較する場合は、無回答は除いてグラフ化し、無回答数を書き添えると分かりやすい。
- ◇ 「心がけている・いない」「見かける・見かけない」「はい・いいえ」等、2値データについては、各々無回答を除いたデータを分母とし、「心がけている」「見かける」「はい」の回答（「1」と入力されている）を分子とした割合を示し、折れ線グラフを作成するのもよい。
- ◇ なお、本調査では、「不安を感じる～感じない」など、基本的に選択肢には順序がある。グラフ化する際、回答が多かった順に選択肢を並べ替える場合もあるが、本調査では並べ替えは行わず、入力データそのままの順序とする。

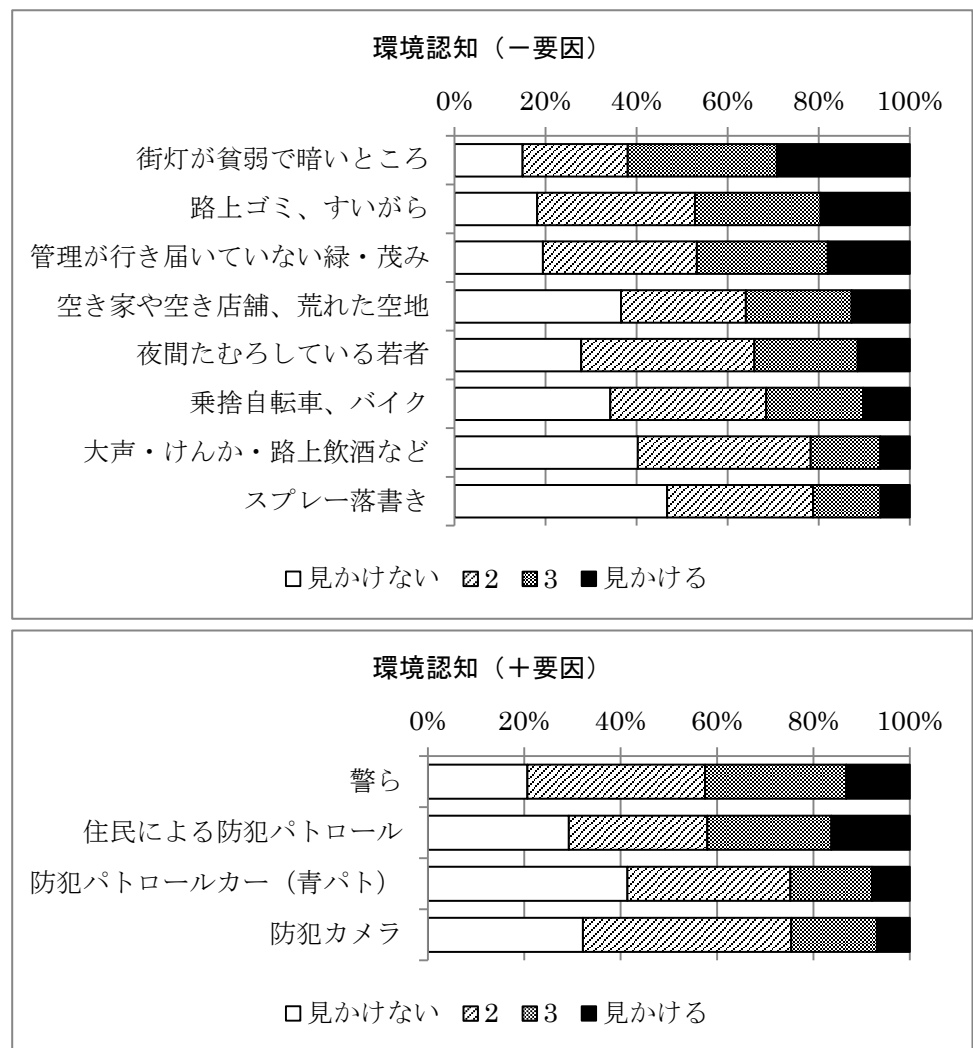
【グラフ例：ヒストグラム】



【グラフ例：帯グラフ】



※回答結果に応じて、質問の並び順をソートすると、見やすいグラフとなる。



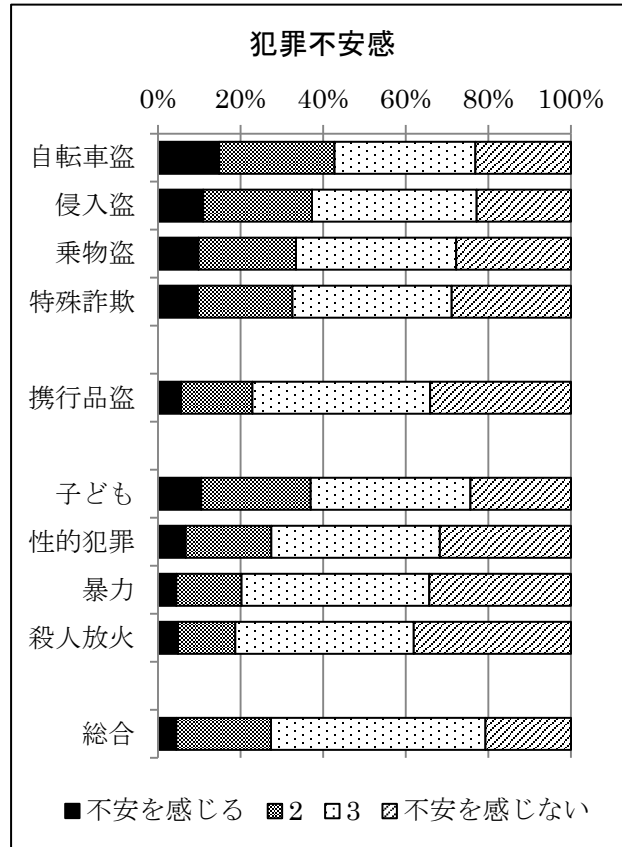
◇ 同一設問内の各項目間の差を示す場合、また性別による意識の違いなどの「クロス集計」結果を示す場合は、100%積み上げ横棒グラフが分かりやすい。

※ 本調査では、Q3（地域の治安意識）、Q4（犯罪不安感\_総合）、Q8（警察信頼度）以外の各設問では、全て同一設問内の項目間で結果の比較ができる。

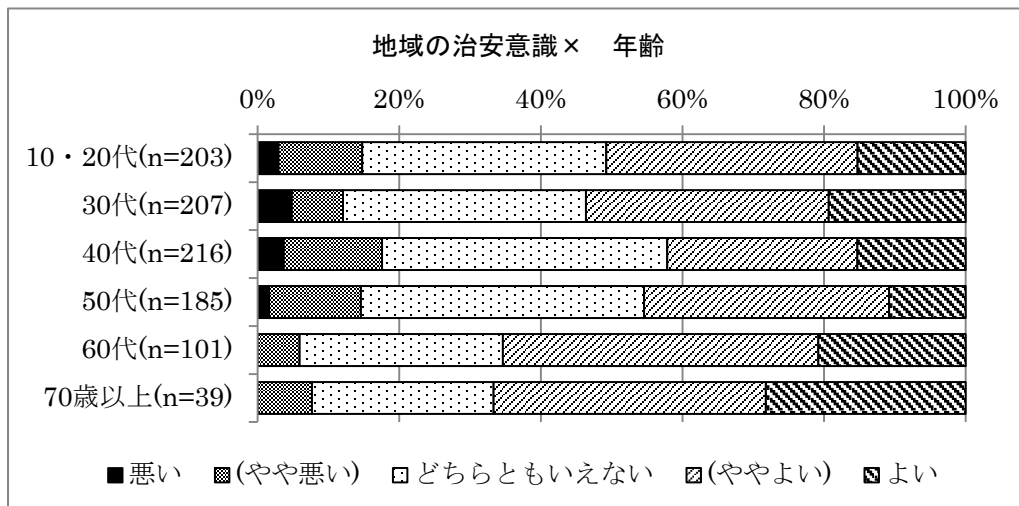
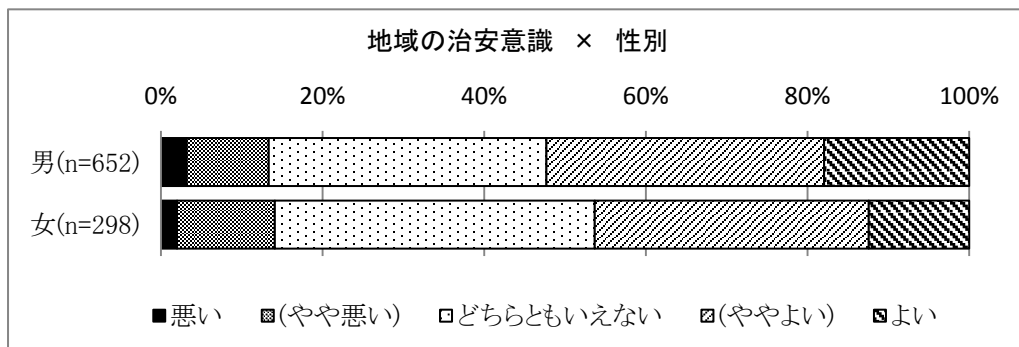
※ たとえば、次ページの図のように「不安を感じる」順に項目を並べ替え、帯グラフを作成して、同一設問内の項目間を比較すると分かりやすい。

※ 特に、クロス集計をグラフ化するときは、各帯に何人分のデータを使ったかを「n=182」のように表記しておくとうよい。

【グラフ例：同一設問内の項目比較】



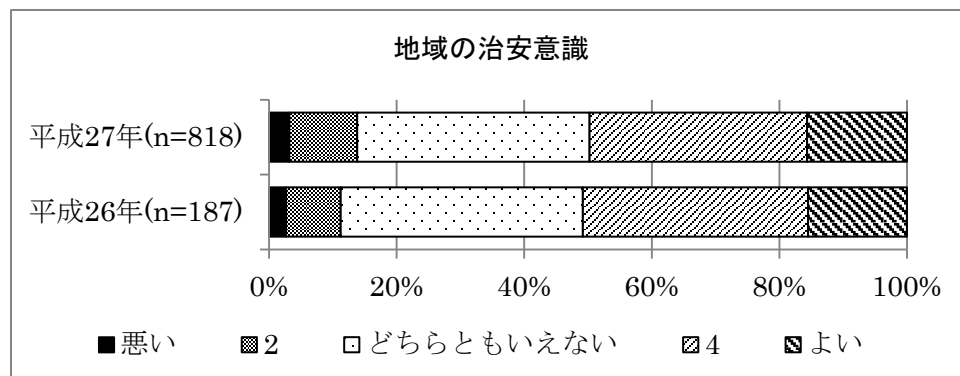
【グラフ例：「クロス集計」】



#### (4) その他の集計・分析例

##### ① 経年比較

◇ 調査票及び調査方法を同一とする継続調査を行うと、経年比較が可能となる。



※データ：平成26年予備調査と「全国統一治安意識調査（平成27年）」埼玉県（いずれも「初回」と「高齢」を除いた「優良」「一般」「違反」のみのデータ）

##### ② 地域分析

- ◇ オプション項目の「郵便番号」データがあれば、地域分析も可能となる。
- ◇ まず、郵便番号を区市町村名に変換する。区市町村名をベースに分析を行いたい「地域」でグルーピングしたうえで（具体的な手順としては、データテーブルに新たに列を設けて地域番号を割り当てる）、クロス集計を実施する。
- ◇ あらかじめ、郵便番号に紐付いた地域分けのリストを準備しておけば、さまざまな地域分析が容易となる。（例：人口集中地区とそれ以外の地区の比較、警察管轄エリアごとの集計 など）

